

2002.10.22

於：東京大学社会科学研究所

高齢化社会と日本の障害者

西田美昭

1. はじめに

なぜ障害者問題を取り上げるのか。障害者のおかれた位置を確定することが、当該社会の質を見極めることにつながると考えるから。

15年間の研究のブランクをどう埋めるのか。一応の到達点の確認。

- 1) 近代日本における障害児教育を規定したイデオロギー 「無用を転じて有用となす」というもの 盲聾教育の先行とその他の重度障害児教育の著しい遅れ。戦後における障害児教育の急発展 発達保障思想の形成。しかし、養護学校の義務化は1979年と遅れる。 いまでも「有用」でないものは放置されていないか。「近代日本における障害児教育の特質」東大社研編『福祉国家6』東大出版会、1985年
- 2) 明治初期の京都盲啞院の発展の意味したもの 障害児の側にたったすぐれた教育理念と、これを具体化するための公的保障、さらには地域の支援という条件が整えば障害児教育は発展すること 現在の理念、公的保障、地域の支援はいかなる性格を持っているか。「盲聾教育形成期における就学保障の展開」『社会科学研究』37巻 4号 岡田与好教授還暦記念号、1985年
- 3) 戦後の日本の障害者 急増・重度化・高齢化が確認できる しかし1984年以降、多少の在宅福祉関係費の増大はあるものの、障害者福祉施設関係費は大幅に削減され、障害者関係予算は大幅に削減されている 重度障害者は、「在宅福祉」という名の下で切り捨てられていないか。「『福祉見直し』と障害者福祉政策の動向」東大社研編『転換期の福祉国家』下巻、東大出版会、1988年

2. 日本の障害者

- 1) 障害者は急増。1987年の197万人 1996年には293万人
- 2) 障害者は急速に高齢化。1987年の全障害者に占める70歳以上の人の割合は31% 1996年には40%へ。
- 3) 障害者は重度化している。1987年の1・2級(重度)の障害者の比率は38% 1996年には43%へ。
* 全体として日本の人口の高齢化が急進展したことにより、障害者は急増・重度化している。1991年から1996年にかけての障害者の増加数は21万人であ

ったがそのうち、10万人は加齢が原因であったと思われる。 高齢障害者。

2. 日本の高齢者

1) 高齢者は急増

1990年の65歳以上人口は1489万人(12.0%) 2000年には2200万人(17.3%)へ。

2) 高齢者は高齢化

1990年の75歳以上人口は597万人(4.8%) 2000年には899万人(7.1%)

3) 高齢者の障害者化

1992年の65歳以上の「全く寝たきり」+「ほとんど寝たきり」の人数は289千人 1999年には316千人に増加。これは上記の80歳以上の人数が170千人から204千人に増加したことが大きい。 障害高齢者。

3. 高齢障害者と障害高齢者

表0 によれば施設に入所している人の高齢化が進んでいることはあきらか。しかし、基本的には特養の年齢のピークが85-89歳にあり、身障者のそれが50-59歳にあるというように一応の棲み分けができています。ここでの問題点は、表16に示されているように身障者の中で最大の比重を占めるのが70歳以上であるから、施設入所者は不自然としかいいようのない少なさを示しているということである。高齢障害者はどこで暮らしているのか 特養か在宅しか考えられない。

特養に入所すれば問題はなくなるか。たとえば聴覚障害を持つ高齢者が手話を使えないスタッフしかいない特養に入所した場合のことを考えればわかるように、人権無視につながるおそれ大きい。(表1・5を参照)

* 障害者の高齢化・高齢者の障害者化 ニーズの多様化こそが本質的問題。

4. 「待機者」問題の含意

1) 障害者の場合 統計の不在

1999年の身体障害者更生相談所における、施設についての相談件数は9598件。この年の身体障害者更生援護施設の入所者数は47343人 施設に十分な収容力はあるか？

この年の知的障害者の福祉事務所における施設入所についての相談件数は116,451件、知的障害者更生相談所における施設入所についての相談件数は19,293件。知的障害者援護施設入所者数は144,143人。(「社会福祉行政業務報告」「社会福祉施設調

査報告」)

つまり、福祉事務所の相談件数は更生相談所のその6倍になるということを考えれば、施設の絶対的不足は統計がないにも関わらず疑いようのない事実と思われる。経験的には関係者はわかっていることであるが。

2)特別養護老人ホームの場合 全国統計が手に入らないので教えてほしい。

石川県の場合 特養ホーム 28カ所 定員 2310人 入所者数 2292人 (2000年の「社会福祉施設調査報告」)

入所希望者 表参照 2809人 うち「今すぐ入居」1049人 一年以内をあわせると 1393人(49.5%)(石川県の内部資料)

* この数値は、1999年の29万人を2004年には36万人にするというゴールドプラン21の計画がいかにか実状に合わないかを示している。

* 高齢障害者・障害高齢者は、これまでの近代日本の歴史が描いてきた軌跡の延長線上で、つまり「無用」なものは基本的に放置されるという方向から抜け出すことは不可能なのだろうか。

<参考文献>

『障害者問題研究』vol.27 no.3 1999年の特集「高齢障害者の介護と生活」

巻末に「高齢障害者関係文献一覧」がある。

なお今日の報告との関連では、上記の特集中、井上英夫「国際高齢者年と『障害者』の人権保障の課題」が重要である。高齢者・障害者の問題を考える上では、「年齢による差別と障害による差別の二重構造」を打破することが課題であることを強調しているからである。